



先日おこなわれた大阪府公立高校一般入試問題のねらいについて、新聞発表は以下のとおりです。

学力検査の出題範囲は、新型コロナ対策の臨時休校期間をふまえ、中学3年の学習内容の約2割を除外し、5教科で基礎学力や応用力を試した。国語、数学、英語は、基礎が中心のA問題と標準的な水準のB問題、難易度の高いC問題の3段階を用意し、各校が選択。数学はB、Cについては、出題範囲の縮小をふまえ、図形に関する大問を例年の2問から1問にし、関数の問いを設けた。出題数や難易度は前年度並み。

【国語】

A～C問題の各大問5では、日常生活や社会生活についてまとめた量の記述を求める問題を出題。二つの標語を示し、より効果的な方を選択させてその理由を述べさせたり（B）、カタカナ語の用に関する考えについて、資料を踏まえながら書かせたりし（C）、条件に従って自分の考えを論理的に表現する力を問うた。

【数学】

A、B問題では、花壇に花を1列に植える場面を題材に、花の本数と列の長さとの関係から関数関係を見だし、日常の事象を数学の知識を使って考察する力をみた。C問題では、一次関数や関数のグラフを題材に、変域や直線の式についての理解、グラフの性質を利用して考察する力を問うた。

【英語】

A、B問題は、ヒゲペンギンについての留学生のスピーチ原稿（A）や、テニスの練習を巡り意見を伝える場面（B）を通して、英語で表現する力を試した。C問題は、問題自体も英語で出題。理想のリーダーに求める資質を論理的に表現させたりし、リスニングでは、文章を読み、その内容について会話を聴き、話し手の考えをまとめる「3技能統合型」の問題を出題した。

【理科】

使い切りカイロの仕組みやドライアイスの動き、季節風などを題材に、科学の知識を使って表現する力をみた。細胞呼吸や岸から突き出た堤防を題材に、複数の資料を読み取る力や情報を適切に処理する力を試した。

【社会】

金属を巡る貿易や武器に関する事柄をはじめ、高校生の留学先の資料などで、文章や図表から必要な情報を取り出したり、情報と知識を結び付けて理解する力をみた。「権力の分立」を題材に、事的なテーマも含めて幅広い知識も問うた。